３年２組　音楽科学習指導案

令和５年２月２１日（火）
指導者　上代　美樹

１　題材名　　曲の感じを生かそう「メヌエット」「山のポルカ」

２　題材の目標

「メヌエット」、「山のポルカ」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現を考えながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴き、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら踊りの音楽に親しむ。

３　授業構想と探究への手立て

本題材では、拍の特徴などを捉えながら曲の感じを味わって聴いたり、拍やリズムを生かした表現を工夫しながら、思いや意図をどのように演奏で表現したりするのかを追究できるように展開していく。

本時で扱う「山のポルカ」は、２年時に鍵盤ハーモニカでの演奏経験のある既習曲である。また、校内音楽会においてリコーダー演奏を行っているため、「山のポルカ」に出てくる運指は既習事項である。以上の事から、子どもたちが親しみをもって取り組むことができ、曲の特徴を生かした演奏につなげやすいと考える。

授業の展開として、曲の特徴（拍やリズム）と曲想との関係に子ども自身が気付けるよう、前時までに学習している３拍子の踊りの音楽である「メヌエット」(ベートーベン作曲）と「山のポルカ」との違いを感じ取ることができるようにする。まず、曲名を伏せた楽譜を提示しながら曲の鑑賞を行い、子どもの感想を引き出す。子どもたちは「楽しい」「弾んだ感じ」などの感想をもつと予想される。この感想を「メヌエット」の学習とつなげることを通して、感じ方の違いを生み出している拍への気付きを引き出していく。その後、拍とリズムから曲の特徴を捉えることができるように、楽譜の音符や休符などを手がかりにしてリズムを感じ取り、曲に合わせて体を動かしたり、拍を数えたりする活動を行っていく。

次に、拍やリズムを手がかりとして、曲の特徴にふさわしい演奏につなげていく。子ども自身が感じている「楽しい」などの特徴を聞き手に感じ取ってもらえる演奏の仕方を考える時間を設定する。「山のポルカ」の楽しいという感じを支えている２拍子の曲の効果的な演奏の仕方について、音の長さ、拍の取り方、タンギングなど既習事項の工夫をグループで考えられるようにする。友だちと話し合う中で浮かぶアイディアを試し、試行錯誤の中で子どもたちが、自分たちの目指す演奏を追究できるようにしたい。

また、子ども自身が自らの工夫やその成果を感じることができるように、１つでも工夫を取り入れて演奏を試しているグループを全体で紹介していく。工夫した点や工夫したことによる変容を友だちと認め合ったり、教師が価値づけたりする場を設定することを通して、さらなる工夫に向かう雰囲気を作り出すとともに、演奏の工夫のポイントを広げていく。そして、工夫の視点を板書に残すなどし、次時の学級全体での演奏の視点につなげていきたい。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。 ②思いや意図に合った表現をするために必要な、範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するのかについて思いや意図をもっている。	①音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ②音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

５　題材全体の流れ（全４時間）

・３拍子を感じ取り、どのような踊りなのかをイメージしながら聴く。「メヌエット」（１）
・バイオリンの音色や演奏の仕方に注目して聴く。「メヌエット」（２）
・２拍子を捉えて、どのように演奏に生かすのかを考える。「山のポルカ」（３：本時）
・曲想と音楽の構造との関わりについて考えながら演奏する。「山のポルカ」（４）

６　本時の学習（第３時／全４時間）

(1) ねらい

拍やリズムから曲の特徴を捉え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	目指す姿と取組を支える手立て
１．「山のポルカ」の曲を聴き、「メヌエット」と比べて感じたことや気付いたことを発表する。 ・メヌエットより弾んだ感じがする。 ・楽しい気分になる。 ・「山のポルカ」だ！	・曲名を伏せて音源を流すことで、興味関心をもって聴くことができるようにする。 ・「山のポルカ」の曲想が捉えやすいように、歌唱の音源を流す。 ・どちらも踊りがテーマの「メヌエット」と「山のポルカ」を比べて考えることで、より拍子に着目できるようにしたい。
２．めあてを提示する。	
山のポルカのひみつを探って、演奏に生かそう	
３．曲の特徴（拍とリズム）を探る。 ・歌ってみたら分かるよ。曲に合わせて拍を打ったら２拍子だったよ。 ・楽譜の最初に４分の２と書いてあるから、２拍子だよ。 ・８部音符が２つで１拍で、１小節に２拍あるから、２拍子だと思います。 ・音符が１小節に３つあるから３拍子かな。 ・１小節に４つ音符があるから、４拍子じゃないかな。	・楽譜を提示することで、音源だけでは気付きにくい拍やリズムに意識が向くようにし、曲の特徴を感じ取れるようにする。 ・曲に合わせて、自分の考えた拍子を声に出してカウントすることで、何拍子の曲であるかを考える手立てとする。 ・２拍子、３拍子、４拍子など、いろいろな意見を取り上げ、なぜ２拍子になるのかを話し合っていくことで、少しずつ拍子に関する理解を深めることができるようにする。
４．演奏の工夫を考えたり、試したりしながら、全体で共有する。 ・２拍子だから音を短くするといいと思う。 ・心の中で、１・２・１・２と歌いながら吹くと拍に乗れるかな。 ・８分音符がたくさん出てくるから、タンギングに気を付けたい。 ・踊っている様子をイメージしながら吹くと楽しくなるかな。 ・体を揺らしながらリズムにのって吹きたい。 ・２拍子の感じを出すには、休符も大事だね。	・自分たちで見つけた曲の特徴をどう演奏に生かすと良いのかを伝え合うことで、曲の特徴と演奏のポイントがつながるようにする。 ・みんなで活動に向かえるように、グループに分かれて演奏の工夫を考える。 【評価の観点（思考・判断・表現）】 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するのかについて思いや意図をもっている。 （観察、発言、ワークシート）
５．ふり返りをする。 ・なんとなく２拍子だと分かっていたけど、楽譜やリズムが分かると、楽しく吹けました。 ・楽しい演奏になるように、拍を感じながら、タンギングに気を付けて吹きたいです。 ・いろいろ考えて吹けたので、楽しかったです。 ・弾んだ感じが伝わるように、リズムをしっかり覚えたいです。	・工夫の視点を板書に残し、子どもたち自身が１時間での変容を確認できるようにするとともに、次時の学級全体での演奏の視点につなげていけるようにする。